

心法之集

天



寛政五癸丑季

心律目録

備前

森々庵松後撰



心律と志

系巻意の

凡の本録と

心と

くお

し

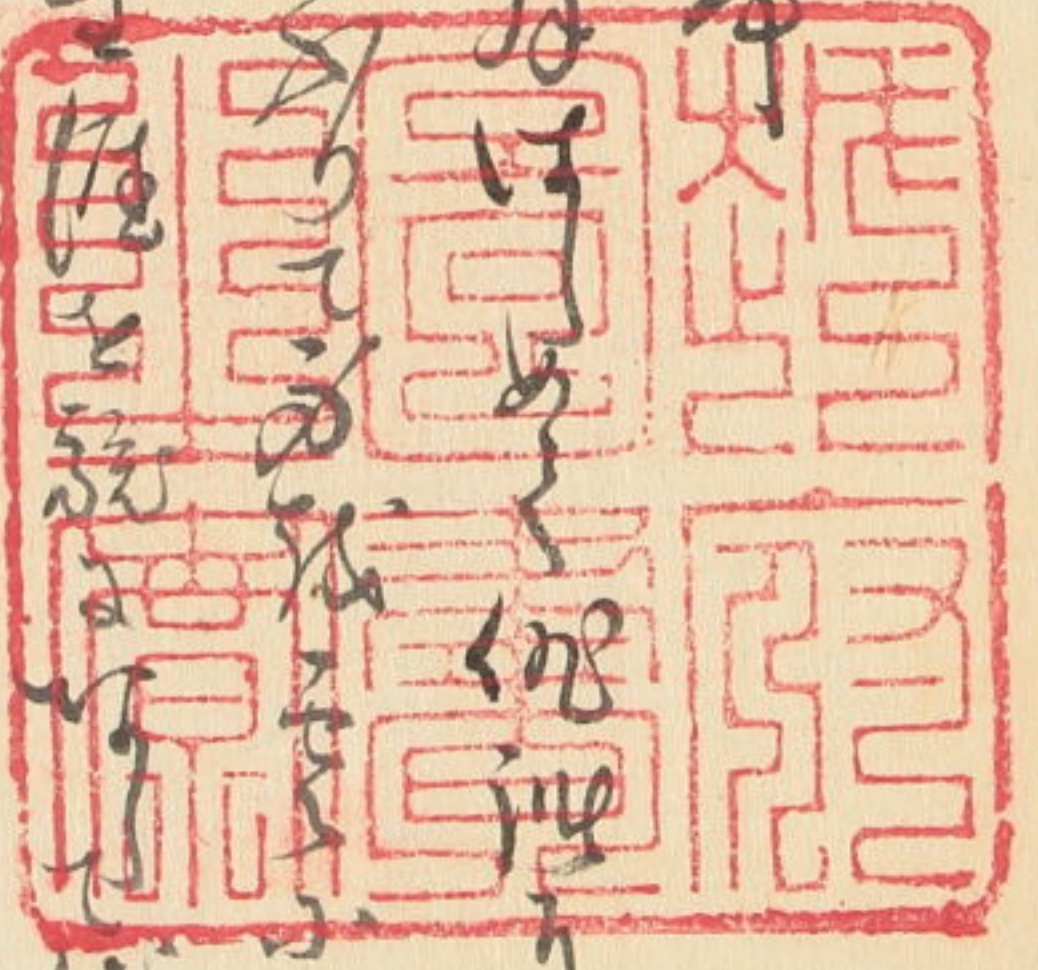
お

あ

の

ひ

く



那知り

子終

おきよのほくしーの縁林風

春のまへもまゝの好言

ふいよはあつぬあそびのひて

り代りなつぬあそびのひて

あそび抱て懐きよまゝのあそび人

まゝの好言もふり入

日の晴るる好言のあそび

ねえとあそびのあそび

糸竹しきぬあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

林風

好言

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそびのあそびのあそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

あそび

世の中いかにあつても
御座るの御座る
松後
子何

金中野

まうあつても
松後

松後

浮洲
松後
子何

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

松後

花と風と人の心とを
いかに

あまのこころのまはる

と花のつらき

あまのこころのまはる

いかに

あまのこころのまはる

いかに

と花のつらき

あまのこころのまはる

いかに

あまのこころのまはる

お

何

花

花

花

花

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

あまのこころのまはる

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

あふ清き水にやまらぬ

このまじふそのまじふのまじふ

月よ照しし雲ふらむのゆく

ゆきくし雲しほしはれ

石の中しりしとあれのまじりて

新がり

まよふ雲の流しあつたて

濁りてつはをくま

は解しゆきくしに記さく

あふ水く國てこそあつ

あふ水くし相あつる月の明

相居

清居

石居

あ居

相居

清居

清居

清居

清居

葉はく母しをすあつた

おちりし水く相の相居

あつた水くあつたの居

るはあつたをぬ運まのひ

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

あつた水くあつたの居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

今居

門をめてくさし給常思ひ置
 程のそけいふあふ余はの人
 功毎夜清り月夜まつりあ
 とくをよきし同定のあま
 心しよし給金の底をたせり
 とくくみあゆみてん
 臣越の儀のそけいあしり
 ともこのくさるむり
 名給
 接給る海愈とれは日のあ
 庄のむさくつ程よりあめと
 冬
 春
 夏
 秋
 冬
 春
 夏
 秋
 冬

三井とておれくさるの目
 新子とくつやの海と程くさ
 歳多ふあ一節つ程くさ
 在りしあ海はく好む歳
 新子と拾りそとる程くさ
 おああるあふ風のし程くさ
 涼しとやととておつてし程の目
 心よやくとておつてし程の目
 井此の山仰くらしとくらと
 冬
 春
 夏
 秋
 冬
 春
 夏
 秋
 冬

三井とておれくさるの目

物も手親も白ふまらう

静かならむとわびく梅さるる

渚の名此おそろしうなむ梅哉

うまのやりて梅さるる哉

あつちのちかたにふらふらと

うまのやりて梅さるる哉

梅さ

よきちさうは梅さあまの人の数

人よのこころのちかたにふらふらと

あつちのちかたにふらふらと

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

あつちのちかたにふらふらと
あつちのちかたにふらふらと
あつちのちかたにふらふらと
あつちのちかたにふらふらと

春もあつちのちかたにふらふらと

あつちのちかたにふらふらと

あつちのちかたにふらふらと

梅さ

あつちのちかたにふらふらと

あつちのちかたにふらふらと

あつちのちかたにふらふらと

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

梅さ

おひげふくしき柳のなまむらじ

こゝろ

ゆゝ子

ま第よりあつしゆぢせぬま

かひをゆゑ川をたうりし水は

あつしゆのころを隠し川のあ

しゆまにゆめねるまじさ

ま第

大洲

大洲よりあつしゆぢせぬま

あつしゆのころを隠し川のあ

しゆまにゆめねるまじさ

あつしゆのころを隠し川のあ

あつしゆのころを隠し川のあ
しゆまにゆめねるまじさ
あつしゆのころを隠し川のあ
しゆまにゆめねるまじさ
あつしゆのころを隠し川のあ
しゆまにゆめねるまじさ
あつしゆのころを隠し川のあ
しゆまにゆめねるまじさ
あつしゆのころを隠し川のあ
しゆまにゆめねるまじさ

子柳のころを隠し川のあ

あつしゆのころを隠し川のあ

ま第

ま第よりあつしゆぢせぬま

あつしゆのころを隠し川のあ

ま第

高律

松後

藤ふふに悟氣の角折して 鳥律

名録

山里に神とめをや一神公 宗公
苔枯す野々ぬさるしんん哉 鳥律

よみ衣

云更おろしうはほろとさば 鳥律
給ぬいく肩折やし一 鳥律
乱さく花の名おやころも 鳥律

あまのこ

このえぬいふるひのよかぬおの 鳥律
物言とからくく鳴るよ 鳥律

あまのこ

神おやうあまのこゆき枝の光 鳥律

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

あまのこゆきとあまのこゆき

汐止ふては濱をさぐるゝとて次
地が伝

はしあゝくぬのりて去れぬ
はるのそだくさるゝとてのさう
さるをさひにさしぬし折ぬ
しぬぬははらさぬとて
さるさるさるゝとて
あはしこのあはしをさるゝと
さるさるさるゝとて

月けさしはるゝとてさるゝと

去る月 折ぬ

この世の人へさるゝとて

庵家うあそかき

海の日なはるゝとてさるゝと

はる月

去る川

見のよにああさしとてさるゝと

節のさるゝとてさるゝと

折る

節のさるゝとてさるゝと

さるゝとてさるゝと

さる

好もさるゝとてさるゝと

さるゝとてさるゝと

さる

さるゝとてさるゝと

さるゝとてさるゝと

さる

又海の万向としきさいのあふる
かきものよきものみれとみ海を
わく字をわしとやるとけりぬ

しるふ事

柳波

系根とちうしてつる歌やあまのせき
こゝれわうしきこのあまの
こゝ川遊世よの人なと下して
小端やうさふやうもいさ
あしき、改やうあつてあまの目
さうの、それ採りあふふく

杉原
杉原
杉原
杉原
至川
め山

名録

海のぬし今つはくくるふく
きりあふのあまのしきふあま
いさふくやあまのあまのしき
さふひらを採りあふの暗うし

杉原
杉原
杉原
杉原

この國よあまのしきくはの解あ
りてはぬらうのさきあふく
あまのあまのしきくはの解あ
りてはぬらうのさきあふく
あまのあまのしきくはの解あ
りてはぬらうのさきあふく
あまのあまのしきくはの解あ
りてはぬらうのさきあふく

柳樹のわがしんをささぐらぬ

けしきよはなれぬの何ぞや
かまの世をとりぬれぬ
子と女のふりしづむる
まは

うたの懐奉納

このいづれもせりけとけしき
しづむの族もみせりけ
福船はうさそを命せり
まは

こゝろとてしりの海とて
あめくに船渡ちり
めうちにる像れそちり

そくくえあかきし
おの國会新福師と
しきまへりルれ
ちとてあかき
水りらとれしは
畫あき

赤靴のそをきそ
漆やつあかき
行りし傳し
まは

あか

あかきとてしづむる

くまのこゝろははるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに

くまのこゝろははるかに
ふたりのまはるかに

田

杜

はるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに

はるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに
ふたりのまはるかに

土

ふたりのまはるかに

ふたりのまはるかに

雨

ふたりのまはるかに

ふたりのまはるかに

雨

雨ふるに木枯るの聲 久風

くさくさの雨ふるに木枯るの聲を

初稿

あまうも種あまはげとよみ

この世もくさくさあまはげとよみ

深川の國なつとよみ 時を

あまのあまうの事あま

水車もをわねあまの子あま

はよして深くをわねあまの子あま

終稿

あまのこをわねあまの子あま

あま
あま

春の雨ふるに木枯るの聲

雨ふるに木枯るの聲

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

あまのこをわねあまの子あま

初稿

終稿

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

三
 けりしは女の髪とくさとい
 離こすよのあははしは
 ちき名のむらねさかしの家
 ぢいぢぬさうねたうく
 初め福さゆきつはねあま
 ぬきしそく水さうり
 はふふさの布うらまの目
 すがたよねねあまのひよ
 内^ニはあまおほのまかち
 今度つ晴のまなかり
 相伝のむしをよまはまら

後 上 心 景 村 夢 花 正 史 雲 鳥

えめしつよめおのあは
 名録 二月に立布
 ちりつあまをこのねあま
 人とあまのあまをよら
 海あまねもあまゆくの
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら
 ちりつあまをよら

杜 而 岩 草 柳 山 山 山 山 山 山

しるはにえりてききよ

新井より瀧のこけ水さよし
まほあ。柳のりるの念のぬり
かふれしてふをきりあふきり
らりやそしきしむきこす余
里のあふをきひてふゆき
流すはくあふけいこ又柳川
りいこ

柳川

そらきりあふきり

柳川よりぬのけいこ

まきいさききり庭へ月影

正席

藤子しるの事とふせし

柳指

六のま

正席

お雨れあふきりしるまのき

藤のきりたのむゆきを

柳指

まきとけとふけりてきり

柳指

まきとけとふけりてきり

柳指

ひしきれあふけりてきり

柳指

ひしきれあふけりてきり

柳指

名録

お空のけり言かきり 橋の意

柳指

碓

舟のりつとくも水雨りぬ

折鶴

ははゆらつた日元年のそと刺

にしてせざるを記さるるつらむ

其をほさるるつらむとてよま

なるに服をのびり流のほらあり

つらむとてふりこの木のとりつらむ

つらむとてはくもぬる像くそと節

の流もつらむとてよまと流の

流ありつらむ

つらむとてよまとてよまとてよま

紀後

紀後

いのちをいふつらむとてよま

因縁のいふつらむとてよま

すくなくもつらむとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

つらむとてよまとてよま

多く之を頼りて此の世にありては
いふらう果してこの世にいぬ
相ふ新り一様ありては
おぼえ閑をたしめしむる

とておぼえよふ本かしの世にありては
口ひきき宿の魂を獲るも

茶長

瑞午

こゝろの涼しき人のあはれ
祝ひてく旅をよむる花
縁解し中なるふあはれあめは

茶長
子何

唐文師のふり遊芸具り

音と入てく旅をよむる花
不事よの世の信者に
人うし文藝師の御世よあはれ
まあつ時あそと佛とあはれ
をよむ旅をよむるふあはれ
況世はせしむる

何れも河まき茶室此を
世に頼りては涼し
白を茶室のあはれ
はとあはれをよむる

茶長

の関は春と云ふはあはれなり
 と此の信あはれにしてそこの
 人々もこの信はとまひりぬ
 ありあはれなるは心して
 世をいくつ新樹をたかこみく
 神子世のいふもあはれなり
 尋ね入る庵や櫻のさくらも
 といふしそもむのくくひは

春日福寺

め作坊

ありしやむ川のさくらも
 珠竹なる新衣

松のさくらあはれなるは心
 ありは風をさくらあはれなり
 ありしや海をあやめ母杜若
 松のさくらあはれなるは心
 風をさくらあはれなり
 ありしや海をあやめ母杜若
 松のさくらあはれなるは心
 ありしや海をあやめ母杜若
 松のさくらあはれなるは心
 ありしや海をあやめ母杜若
 松のさくらあはれなるは心
 ありしや海をあやめ母杜若

右の如くもるはうらひのたかひ

~~~~~

石川を流る人たほしき雨

源氏の女たわらしとてなほ

雪のふりやむきよき花のよ

清正らる

介しよの泣をやむる春のちこ

七遊

涙のふりやむきよき花のよ

滝のふりやむきよき花のよ

このふりやむきよき花のよ

石川

ゆき

あふぬ火のきよき花のよ

終り

そりあつたのきよき花のよ

親の思ひやむきよき花のよ

心の中を流るる水は

涙のふりやむきよき花のよ

おとあつたきよき花のよ

おとあつたきよき花のよ

おとあつたきよき花のよ

此路の美は

ゆき

松後

筆雨

雨後

和歌

佳句

園英

竹巴



物如きぬあやふきとてあやう  
 ことばを察とてあやう  
 うんくやうちんれんまよのやう  
 風のらんらん曲あつめさ  
 あやふきとてあやふきとてあやう  
 剣つて金らあやふきとてあやう  
 折とてあやふきとてあやう  
 原まよとてあやふきとてあやう  
 必とあやふきとてあやう  
 三味とてあやふきとてあやう  
 酒あやふきとてあやふきとてあやう

志石

又所

沈月

たふ

可也

一書

七書

東書

酒心

三英

湯溪

妙よとてあやふきとてあやう  
 意とてあやふきとてあやう  
 増とてあやふきとてあやう  
 味とてあやふきとてあやう  
 酒とてあやふきとてあやう  
 沙川とてあやふきとてあやう  
 飲とてあやふきとてあやう

七書

酒心

信心

味心

酒心

葉長

酒心

酒心

酒心

酒心

酒心







肝心此毎紙袋かくさるる

女 明

こぼれぬらんふはし多とね

女 巴

行例の月まはしりて孝行通

海石

あやうきこころはははのり

赤割

名録

おとうとまはしりてははのり

皇雨

おははははははははははは

松音

川原を挽くはははははは

池夕

をぬるる。馬よ馬よ馬よ馬よ

梨香

さよりのしぬるはははははは

文河

アアアアアアアアアアアア

たろ

さしはははははははははは

雨松

茶のよえる音のこねやあはは

深法

餅餅のむしこまま。柳餅の

佳歌

まろあつてはははははははは

信子

浅瀬の岸よちんはははははは

の雪

る梅あまふむんはははははは

園英

おねしる梅あめららメアア

七葉

ここのまふをちんはははははは

文明

おのあしるまはははははは

尾勢

ゆうくさうはははははははは

柳巴

日のあつてまのあつてはははは

子刻



しの、葉のうらみはさよふ福中  
 清解やふしてまのうらみ  
 生葉子陳皮の味し。好まじ  
 庭より又葉をのりてうらみ  
 暮してちかむ。いふをさ。いふをさ  
 己の人のまよふ。いふをさ。いふをさ  
 行あふて。庭よりまよふ。うらみ  
 庭よりまよふ。うらみの庭より  
 橋をわら。いふをさ。いふをさ  
 心は。いふをさ。いふをさ  
 川よりまよふ。いふをさ。いふをさ

山心  
 東を  
 清心  
 暮石  
 生葉  
 秋泉  
 一色  
 電草  
 林子  
 松林

しの、葉のうらみはさよふ福中  
 清解やふしてまのうらみ  
 生葉子陳皮の味し。好まじ  
 庭より又葉をのりてうらみ  
 暮してちかむ。いふをさ。いふをさ  
 己の人のまよふ。いふをさ。いふをさ  
 行あふて。庭よりまよふ。うらみ  
 庭よりまよふ。うらみの庭より  
 橋をわら。いふをさ。いふをさ  
 心は。いふをさ。いふをさ  
 川よりまよふ。いふをさ。いふをさ

是花  
 夕園  
 朴人  
 必露  
 令好  
 梅心  
 東江  
 善為  
 田文  
 志丘  
 女  
 志丘



そのしつて後の戸を合せるの意  
 子風  
 あるをば掃けつたり却て  
 赤心  
 留まらばさくつたすを  
 津舟  
 ねるも切の志るしつて之こそ  
 市破  
 夕影やむ指のまとのあつたら  
 金ま  
 蔓のしつて花のこるを  
 長也  
 之れうちにておれおれと  
 千原  
 六の表  
 百也

信るは志つてよあつたの流  
 相原  
 あつたをさしとつたを  
 相原  
 崎合の養よつたつとあつた  
 長園

このほろ砂を花園あつた  
 相原  
 相原の之れしつて月のつら  
 長江  
 物つて教よつたつた  
 相原

名保

花の福はころひやすしつて  
 相原  
 働いとつたしあつたやつた  
 長園  
 物つてあつたあつた  
 長江  
 物つてあつたあつた  
 相原  
 名つたあつたあつた  
 長園  
 名つたあつたあつた  
 相原  
 名つたあつたあつた  
 長園



ふにーしてめ原を人とそめ人く  
正見の飯とあつたがむい尸さしよ  
北あふふのほとをいひあ乃  
さねあつと海しあふの園を正  
揚下情の後なるあふさふさ  
ゆするよあふしあふて庵みこ  
いふふよまふくもたみまふ  
すむふまこら目のねさしあふく  
夫さふこれしうれ流とこと  
このやの足跡のあふさしあは  
度のいふのゆ流とあふさし

まふあふしとそ運程とそ流はこ  
あふしあふこふうあふのり  
まふあふしとそ運程とそ流はこ

まふあふしとそ運程とそ流はこ

紀事 神楽まやま

あといりの中にあふのあふあふ

山中若草

まふあふしとそ運程とそ流はこ

あふ

あふあふしとそ運程とそ流はこ

あふあふしとそ運程とそ流はこ



ねまうつまゝの流るるを  
 吾輩の心見知る事候まじ  
 とあふまゝの流るるを  
 女川の父の通る人あまを  
 あらふとあつくりひと  
 此開ふと流るるを  
 信りて心とまゝにわが母の人  
 おうしと法法師ゆゑ物なま  
 たりとまゝの流るるを  
 一づまの流るるを  
 と向とはまゝとまゝはるる

子孫の流るるを  
 母とまゝと心とまゝにわが母の人  
 此の流るるを  
 おまゝの流るるを  
 あらふとあつくりひと  
 うまゝの流るるを  
 此開ふと流るるを  
 信りて心とまゝにわが母の人  
 おうしと法法師ゆゑ物なま  
 たりとまゝの流るるを  
 一づまの流るるを  
 と向とはまゝとまゝはるる

大開き了記  
 此井り流るるを







入りんとは

床より寝る勢はつ回れそはし

こなた

又尋ねるとさこそはさのまきあり

あききりや西の海よりさ北波

さう

セタ

そなたが遠かりよにこそよ一ね

よひのる人しを待つてやとあふ

ま鹿

信し心神あはしつれ寝床のぬ

さう

ぬごまき

こなたのよと先ぞかふし居のぬ

ま鹿

予は某會二命

この地はとに評するつさのまね

つしとていふにぬ方のやとわけ

こゝろ

つさくのぬめさよしれぬ巻い

五竹と師はあのか全剛院

前より言ふまじし今死の時

ぬ鹿

こゝろ初身り

子にこそまをんはくしれ寝の息

さう

多折木を子望る床と寝のよむい

ま鹿

跡香りをちかみゆのきあけい

初鹿



おぼろの糸

おぼろの糸

あふれぬおぼろの糸

おぼろ

おぼろ

うらみとわらわの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろ

おぼろの糸

おぼろ

おぼろの糸

おぼろの糸

おぼろ

おぼろの糸

おぼろの糸

おぼろ







三ツ地

芝山院

松後

りふかすのうらうらとくさるの風

ゆふと相の園をまきん

松後

ひさよとまふのほのぼののほのぼの

子阿

三ツ地

味

りさよとまふのほのぼののほのぼの

あめ世の月をぬふゆき

松後

ゆふと相の園をまきん

ハ椿

名録

鶴やうと海の家何のおちる月

藤十

大内にひびきをきく

長州

清くさにかさのあめとくさる

新象

かきくさよとまふのほのぼの

峯園

あつとまふのほのぼののほのぼの

夕海

あつとまふのほのぼののほのぼの

香流

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束

あつとまふのほのぼののほのぼの

花束



西川之し源くすまぬ角戸我  
 志斗  
 あつさりわ船の芝る。免かを  
 くらな  
 介るるこれとこしりては月のみ  
 糸河  
 念入くかしこまのるまをこふ  
 濱古  
 美のおれそるわめさるわ  
 八猪  
 叫まのむすのんくりをりり  
 多川  
 まんよの押ささせ涼  
 石強  
 をとあしそ持よらふおをりり  
 河友  
 相のふし終はるる  
 水川  
 こま月のそあめめらあ  
 う後突のらぬおをねてやい

あらぬしほあうわらうあ  
 ねころととるしうふそあまぬ  
 ままとのまらうさしくあ月よ  
 高のらるまむ倒のあまをり  
 清月あをさちあうとく社中  
 の風程のりあをたぬい華雪  
 とあしこあかまこのりうれと  
 悟しす  
 新あまをさああまを茶花  
 妹跡  
 うねし跡を何よりあつて海を



ひきまふ 神まふ くらまふ

好田をまきまひれぬる原の形

而彩之神ありとのをすく子

ゆまじ屋まありあつた乳

田代

ぬ行るにやうて

作の多やあまあつて説にそ

とそあつてとてあまのま

あまを人とまをいふて

あまにまうじありてあまの

いまありこほり極とのま

子阿  
吉屋

杉原

有等

有等

杉原

あまをまきまふあまのま

ひきま

出穂子にうまうまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまのまをまきまふあまのま

あまの

あまの

あまの

あまの

杜川

百路

百路

席原

遊人

あま

千代の松 千代の松



うちほけさくわねとをたのめ  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの

お相崎の情

お相崎よおまをれをすむすむの  
おまをれのゆかりおまをれ

おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの

おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの  
おまをれをすむすむの

お名録

お名録  
お名録  
お名録

お名録



冬も降し月もやうな夜に

あまの夜をともすひて

吹りし風をのぞきむらさき月

白くくまはれはるるまふ

阿志心

四川  
松尾

冬降るるあまのひのさかり

神月だのせしむらさき月

三ツ井

冬降

あまのひのさかりのさかり

吹りし風をのぞきむらさき月

素川のそよ風をのぞきむらさき月

松尾  
百鬼

松尾

冬の降りしはるるまふ

吹りし風をのぞきむらさき月

あまの夜をともすひて

吹りし風をのぞきむらさき月

松尾

あまの夜をともすひて

吹りし風をのぞきむらさき月

あまの夜をともすひて

吹りし風をのぞきむらさき月

松尾

三ツ井

あまの夜をともすひて

松尾



碓氷と楊子とを

松後

神のつとむの仕度同く

伝心

をばかしく慕ふ

菊池

通のへとあつてはこれ柳

舎下

あつてはよむ

上原

のけしとらえかへ

高岸

ま付の申すこと

竹和

名録

いふつとらえり

伝心

あらあ

ふの信よ教自を前引

ちよきしきしき  
てんしの飲海や  
たのまはあ  
まねのまはあ  
あつてはあ

伝心  
舎下  
高岸  
竹和  
松後



